

200921013A

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
平成 21 年度 総括・分担研究報告書

在宅および施設における要介護・要支援高齢者に必要な
介護サービス量を推定するモデルの開発に関する研究

(H19・長寿一般-013)

平成 22 年 3 月

研究代表者 筒井 孝子

国立保健医療科学院（福祉サービス部）

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）

平成 21 年度 総括・分担研究報告書

「在宅および施設における要介護・要支援高齢者に必要な介護サービス量を推定するモデルの開発に関する研究」（H19-長寿-一般-013）

研究代表者 筒井孝子

平成 22（2010）年 3 月

総括・分担研究報告書

「在宅および施設における要介護・要支援高齢者に必要な介護サービス量を推定するモデルの開発に関する研究」

I. 総括研究報告

はじめに

第1章 データ分析に用いた要介護者の性別・年齢別の基礎的属性-全国調査との比較より-

第2章 経年的観察を行った要介護高齢者の性別・年齢別にみた身心状態に関する基礎的分析結果

第3章 ケア提供場所別要介護高齢者の性別・年齢別・状態別にみた健康状態 84

第7章 新分類による維持・改善・悪化群別提供サービス量の経年的変化

研究代表者 筒井孝子

II. 分担研究報告

第4章 要介護・要支援状態の経時的変化が介護給付単位数に与える影響に関する基礎的研究—在宅および施設における高齢者等の状態情報パネルデータを活用して—

分担研究者 山内康弘

研究協力者 筒井孝子, 東野定律, 大冢賀政昭

第5章 要介護高齢者の健康状態の時間的推移に関する統計分析

分担研究者 宮野直哉

研究協力者 筒井孝子, 東野定律

第8章 1分間タイムスタディ調査による分析データによる在宅・GH・施設におけるケア内容別提供時間の比較

分担研究者 東野定律

研究協力者 筒井孝子, 大冢賀政昭

第9章 在宅およびグループホームに入所中の高齢者における精神行動障害ならびに睡眠障害の実態把握と対処課題の抽出」

分担研究者 三島和夫

研究協力者 有竹清夏¹⁾、筒井孝子、大冢賀政昭、榎本みのり¹⁾、肥田昌子¹⁾、北村真吾¹⁾、渡辺真紀子¹⁾、守口善也¹⁾

1) 国立精神・神経センター 精神保健研究所

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 185

終わりに 190

資料編 191

1. 研究の背景と目的.....	16
2. 研究の概要	17
第1章 データ分析に用いた要介護者の性別・年齢別の基礎的属性 -全国調査との比較より-..	19
1. 基本属性.....	19
2. 要介護度（二次判定）	23
3. まとめ.....	32
第2章 経年的観察を行った要介護高齢者の性別・年齢別にみた心身状態に関する基礎的分析結果	33
1. 要介護認定等基準時間	33
2. 第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の経年的変化.....	38
3. 第2群（移動等関連）の中間評価項目得点の経年的変化	43
4. 第3群（複雑な動作等関連）の中間評価項目得点の経年的変化.....	49
5. 第4群（特別な介護等関連）の中間評価項目得点の経年的変化.....	54
6. 第5群（身の回りの世話等関連）中間評価項目得点の経年的変化.....	60
7. 第6群（コミュニケーション等関連）中間評価項目得点の経年的変化.....	66
8. 第7群（問題行動関連）中間評価項目得点の経年的変化	71
9. まとめ.....	76
第3章 ケア提供場所別要介護高齢者の性別・年齢別・状態別にみた健康状態.....	81
1. 性別	81
2. 年齢	81
3. ケア提供場所別平均要介護度、要介護度別人数等	82
4. 要介護認定等基準時間の経年的変化.....	83
5. 第1群（麻痺・拘縮関連）の経年的変化	87

6. 第2群（移動等関連）の経年的な変化.....	91
7. 第3群（複雑な動作関連）の経年的変化.....	95
8. 第4群（特別な介護等関連）の経年的変化.....	99
9. 第5群（身の回りの世話等関連）の経年的変化.....	102
10. 第6群（コミュニケーション等関連）の経年的変化.....	105
11. 第7群（問題行動関連）の経年的変化.....	108
12. まとめ.....	111
第4章 要介護・要支援状態の経時的変化が介護給付単位数に与える影響に関する基礎的研究—在宅および施設における高齢者等の状態情報パネルデータを活用して—.....	114
1. 研究目的.....	114
2. 研究対象と方法.....	115
3. 研究結果.....	116
4. 考察.....	118
5. 結論.....	119
第5章 要介護高齢者の健康状態の時間的推移に関する統計分析.....	120
1. 研究目的.....	120
2. 研究対象と方法.....	121
3. 研究結果.....	123
4. 考察.....	126
5. 結論.....	126
第6章 要介護高齢者の健康状態の時間的推移を用いた角度指標による分類の妥当性の検証.....	127
1. 麻痺・拘縮分類.....	127
2. 移動分類.....	128

3. 複雑な動作等分類.....	128
4. 特別な介護等分類.....	129
5. 身の回りの世話分類.....	130
6. コミュニケーション分類.....	131
7. 問題行動分類.....	132
8. まとめ.....	132
第7章 新分類による維持・改善・悪化群別提供サービス料の経年的変化.....	133
1. 訪問介護(身体).....	133
2. 訪問介護(身体・家事).....	134
3. 訪問介護(家事).....	135
4. 訪問入浴.....	136
5. 訪問看護.....	137
6. 訪問リハ.....	138
7. 通所介護.....	139
8. 通所リハ.....	141
9. 用具貸与(車いす).....	142
10. 用具貸与(特殊寝台).....	143
11. 用具貸与(その他).....	144
12. 短期生活.....	145
13. 短期保健.....	146
14. 短期医療.....	147
15. 療養管理(医師・歯科医師).....	148
16. 療養管理(その他).....	149

17. 認知症対応	150
第 8 章 1 分間タイムスタディ調査による分析データによる在宅・GH・施設におけるケア内容別提供時間の比較	151
1. 調査対象高齢者の属性	151
2. ケア提供場所（在宅・GH・施設）別提供時間	155
第 9 章 在宅およびグループホームに入所中の高齢者における精神行動障害ならびに睡眠障害の実態把握と対処課題の抽出	177
1. 目的	177
2. 研究対象と方法	178
3. まとめと考察	182
4. 結論	184
Ⅲ 研究成果の刊行に関する一覧表	195
終わりに	200
資料編	201

図表目次

図 1-1	分析データと全国データにおける年齢階層の構成割合	20
図 1-2	分析データと全国データにおける男性の年齢階層別構成割合	21
図 1-3	分析データと全国データにおける女性の年齢階層別構成割合	22
図 1-4	分析データと全国データにおける要介護度構成割合	23
図 1-5	男性における分析データと全国データにおける要介護度構成割合	24
図 1-6	女性における分析データと全国データにおける要介護度構成割合	25
図 1-7	分析データにおける年齢階層別要介護の構成割合	26
図 1-8	全国データにおける年齢階層別要介護の構成割合	27
図 1-9	分析データにおける年齢階層別要介護の構成割合（男性）	28
図 1-10	分析データにおける年齢階層別要介護の構成割合（女性）	29
図 1-11	全国データにおける年齢階層別要介護の構成割合（男性）	30
図 1-12	全国データにおける年齢階層別要介護の構成割合（女性）	31
図 2-1	要介護認定等基準時間の推移（ボックスチャート）	33
図 2-2	男女別の要介護認定等基準時間の経年的な変化	34
図 2-3	年齢階層別の要介護認定等基準時間の経年的な変化	35
図 2-4	男性の年齢階層別要介護認定等基準時間の経年的な変化	36
図 2-5	女性の年齢階層別要介護認定等基準時間の経年的な変化	37
図 2-6	第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の推移（ボックスチャート）	38
図 2-7	男女別の第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の経年的変化	39
図 2-8	年齢階層別第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の経年的な変化	40
図 2-9	男性の年齢階層別第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の経年的な変化	41
図 2-10	女性の年齢階層別第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の経年的な変化	42
図 2-11	第2群（移動等関連）の中間評価項目得点の推移（ボックスチャート）	43
図 2-12	男女別第2群（移動等関連）の中間評価項目得点の経年的な変化	44
図 2-13	年齢階層別第2群（移動等関連）の中間評価項目得点の経年的な変化	46
図 2-14	男性の年齢階層別第2群（移動等関連）の中間評価項目得点の経年的な変化	47
図 2-15	女性の年齢階層別第2群（移動等関連）の中間評価項目得点の経年的な変化	48
図 2-16	第3群（複雑な動作等関連）の中間評価項目得点の推移（ボックスチャート）	49
図 2-17	男女別第3群（複雑な動作等関連）の中間評価項目得点の経年的な変化	50
図 2-18	年齢階層別第3群（複雑な動作等関連）の中間評価項目得点の経年的な変化	51

図 2-19 男性の年齢階層別第 3 群（複雑な動作等関連）の中間評価項目得点の経年的変化	52
図 2-20 女性の年齢階層別第 3 群（複雑な動作等関連）の中間評価項目得点の経年的な変化	53
図 2-21 第 4 群（特別な介護等関連）の中間評価項目得点の推移（ボックスチャート）	54
図 2-22 男女別第 4 群（特別な介護等関連）の中間評価項目得点の経年的変化	55
図 2-23 年齢階層別第 4 群（特別な介護等関連）の中間評価項目得点の経年的変化	56
図 2-24 年齢階層別第 4 群（特別な介護等関連）の中間評価項目得点の経年的変化（男性）	58
図 2-25 年齢階層別第 4 群（特別な介護等関連）の中間評価項目得点の経年的変化（女性）	59
図 2-26 第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の推移（ボックスチャート）	60
図 2-27 男女別第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の経年的変化	61
図 2-28 年齢階層別第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の経年的変化	62
図 2-29 年齢階層別第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の経年的変化	64
図 2-30 年齢階層別第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の経年的変化	65
図 2-31 第 6 群（コミュニケーション等に関連する項目）の中間評価項目得点の推移（ボックスチャート）	66
図 2-32 男女別第 6 群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の経年的変化	67
図 2-33 年齢階層別第 6 群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の経年的変化	68
図 2-34 年齢階層別第 6 群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の経年的変化（男性）	69
図 2-35 年齢階層別第 6 群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の	70
図 2-36 第 7 群（問題行動関連）の中間評価項目得点の推移（ボックスチャート）	71
図 2-37 男女別第 7 群（問題行動関連）の中間評価項目得点の経年的変化	72
図 2-38 年齢階層別第 7 群（問題行動関連）の中間評価項目得点の経年的変化	73
図 2-39 年齢階層別第 7 群（問題行動関連）の中間評価項目得点の経年的変化（男性）	

.....	74
図 2-40 年齢階層別第 7 群（問題行動関連）の中間評価項目得点の経年的変化（女性）	75
.....	83
図 3-1 ケア提供場所別要介護者の要介護度の分布	84
図 3-2 ケア提供場所別要介護認定等基準時間の経年的な変化	85
図 3-3 男性のケア提供場所別要介護認定等基準時間の経年的な変化	86
図 3-4 女性のケア提供場所別要介護認定等基準時間の経年的な変化	88
図 3-5 ケア提供場所別第 1 群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の経年的な変化	89
図 3-6 男性のケア提供場所別第 1 群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の経年的な変化	90
図 3-7 女性のケア提供場所別第 1 群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の経年的な変化	92
図 3-8 ケア提供場所別第 2 群（移動等関連）の中間評価項目得点の経年的な変化	93
図 3-9 男性のケア提供場所別第 2 群（移動等関連）の中間評価項目得点の経年的な変化	94
.....	96
図 3-10 女性のケア提供場所別第 2 群（移動等関連）の中間評価項目得点の経年的な変化	96
.....	97
図 3-11 ケア提供場所別第 3 群（複雑な動作等関連）の中間評価項目得点の経年的変化	98
.....	99
図 3-12 男性のケア提供場所別第 3 群（複雑な動作等関連）の中間評価項目得点の	98
図 3-13 女性のケア提供場所別第 3 群（複雑な動作等関連）の中間評価項目得点の経年的な変化	99
.....	101
図 3-14 ケア提供場所別第 4 群（特別な介護等関連）中間評価項目得点の経年的な変化	102
.....	103
図 3-15 ケア提供場所別第 4 群（特別な介護等関連）の中間評価項目得点の経年的な変化（男性）	104
.....	106
図 3-16 ケア提供場所別第 4 群（特別な介護等関連）の中間評価項目得点の経年的な変化（女性）	106
.....	107
図 3-17 ケア提供場所別第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点	107
図 3-18 ケア提供場所別第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点	104
図 3-19 ケア提供場所別第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の	105
図 3-20 ケア提供場所別第 6 群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点	106
図 3-21 ケア提供場所別第 6 群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点	107
図 3-22 ケア提供場所別第 6 群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の経年的変化（女性）	107

図 3-23 ケア提供場所別第 7 群 (問題行動関連) の中間評価項目得点の経年的変化...	108
図 3-24 ケア提供場所別第 7 群 (問題行動関連) の中間評価項目得点の経年的変化 (男性)	109
図 3-25 ケア提供場所別第 7 群 (問題行動関連) の中間評価項目得点の経年的変化 (女性)	110
図 5-1 d12(5) に関する度数分布	123
図 5-2 d23(5) に関する度数分布	123
図 5-3 d34(5) に関する度数分布	123
図 5-4 d14(5) に関する度数分布	124
図 5-5 θ12(5) に関する度数分布	124
図 5-6 θ23(5) に関する度数分布	125
図 5-7θ34(5) に関する度数分布	125
図 5-8 θ14(5) に関する度数分布	125
図 6-1 麻痺・拘縮分類による維持・悪化・改善別各群角度指標	127
図 6-2 移動分類による維持・悪化・改善別各群角度指標	128
図 6-3 複雑な動作等分類による維持・悪化・改善別各群角度指標	129
図 6-4 特別な介護等分類による維持・悪化・改善別各群角度指標	129
図 6-5 身の回りの世話分類による維持・悪化・改善別各群角度指標	130
図 6-6 コミュニケーション分類による維持・悪化・改善別各群角度指標	131
図 6-7 問題行動分類による維持・悪化・改善別各群角度指標	132
図 7-1 訪問介護 (身体) サービスの新分類別経年的変化	134
図 7-2 訪問介護 (身体・家事) サービスの新分類別経年的変化	135
図 7-3 訪問介護 (家事) サービスの新分類別経年的変化	136
図 7-4 訪問入浴サービス料の新分類別経年的変化	137
図 7-5 訪問看護サービス料の新分類別経年的変化	138
図 7-6 訪問リハサービス料の新分類別経年的変化	139
図 7-7 通所介護サービスの新しい新分類別経年的変化	140
図 7-8 通所リハサービスの新しい新分類別経年的変化	141
図 7-9 用具貸与(車いす) サービス料の新しい新分類別経年的変化	142
図 7-10 用具貸与(特殊寝台) サービスの新しい新分類別経年的変化	143
図 7-11 用具貸与(その他) サービス料の新しい新分類別経年的変化	144
図 7-12 短期生活サービス料の新しい新分類別経年的変化	145
図 7-13 短期保健サービスの新しい新分類別経年的変化	146

図 7-14	短期医療サービス料の新分類別経年的変化	147
図 7-15	療養管理(医師・歯科医師)の新分類別経年的変化	148
図 7-16	療養管理(その他)の新分類別経年的変化	149
図 7-17	認知症対応の新分類別経年的変化	150
図 8-1	ケア提供場所別調査対象者の中間評価項目得点の平均値	155
図 8-2	在宅における平均ケア提供時間の分布	156
図 8-3	GHにおける平均ケア提供時間の分布	156
図 8-4	施設における平均ケア提供時間の分布	157
図 8-5	ケア提供場所別大分類別平均ケア提供時間の割合	158
図 9-1	認知機能グレードと頻度	185
図 9-2	睡眠障害および随伴精神行動障害(BPSD)の出現頻度	186
図 9-3	BPSD カテゴリの障害頻度(攻撃的行動)	187
図 9-4	BPSD カテゴリの障害頻度(行動の過多と変質)	187
図 9-5	BPSD カテゴリの障害頻度(不安と焦燥)	187
図 9-6	BPSD カテゴリの障害頻度(その他の諸症状)	187
図 9-7	各睡眠障害の障害頻度(入眠困難)	188
図 9-8	各睡眠障害の障害頻度(睡眠維持障害)	188
図 9-9	各睡眠障害の障害頻度(昼夜逆転)	188
図 9-10	認知機能グレードと BPSD カテゴリ(攻撃的行動)	189
図 9-11	認知機能グレードと BPSD カテゴリ(行動の過多と変質)	189
図 9-12	認知機能グレードと 4 つの BPSD カテゴリ(不安と焦燥)	190
図 9-13	認知機能グレードと 4 つの BPSD カテゴリ(その他の諸症状)	190
図 9-14	認知機能グレードと睡眠障害の頻度(入眠困難)	191
図 9-15	認知機能グレードと睡眠障害の頻度(睡眠維持障害)	191
図 9-16	認知機能グレードと睡眠障害の頻度(昼夜逆転)	192
図 9-17	BPSD カテゴリ(攻撃的行動)と昼夜逆転の関連性	193
図 9-18	BPSD カテゴリ(行動の過多と変質)と昼夜逆転の関連性	193
図 9-19	4 つの BPSD カテゴリと睡眠障害の関連性(不安と焦燥)	194
図 9-20	4 つの BPSD カテゴリと睡眠障害の関連性(その他の諸症状)	194
図 0-1	男女別要介護認定等基準時間・移動平均差分(ボックスチャート)	201
図 0-2	年齢階層別要介護認定等基準時間・移動平均差分(ボックスチャート)	202
図 0-3	現在の状況別要介護認定等基準時間・移動平均差分(ボックスチャート)	203
図 0-4	年齢階層別・男女別要介護認定等基準時間・移動平均差分(ボックスチャート)	

.....	204
図 0-5 現在の状況別・男女別要介護認定等基準時間・移動平均差分（ボックスチャート）	205
.....	207
図 0-6 現在の状況別・年齢階層別要介護認定等基準時間・移動平均差分（ボックスチャート）	208
.....	211
図 0-7 男女別中間評価項目得点（第1群（麻痺・拘縮等））移動平均差分（ボックスチャート）	215
.....	216
図 0-8 年齢階層別中間評価項目得点（第1群（麻痺・拘縮等））移動平均差分（ボックスチャート）	217
.....	218
図 0-9 現在の状況別中間評価項目得点（第1群（麻痺・拘縮等））移動平均差分（ボックスチャート）	219
.....	220
図 0-10 年齢階層別・男女別中間評価項目得点（第1群（麻痺・拘縮等））移動平均差分（ボックスチャート）	223
.....	224
図 0-11 現在の状況別・男女別中間評価項目得点（第1群（麻痺・拘縮等））移動平均差分（ボックスチャート）	225
.....	226
図 0-12 現在の状況別・年齢階層別中間評価項目得点（第1群（麻痺・拘縮等））	227
.....	228
図 0-13 男女別中間評価項目得点（第2群（移動等関連））	229
.....	231
図 0-14 年齢階層別中間評価項目得点（第2群（移動等関連））	232
.....	233
図 0-15 現在の状況別中間評価項目得点（第2群（移動等関連））	232
.....	233
図 0-16 年齢階層別・男女別中間評価項目得点（第2群（移動等関連））	233
.....	233
図 0-17 現在の状況別・男女別中間評価項目得点（第2群（移動等関連））移動平均差分（ボックスチャート）	233
.....	233
図 0-18 現在の状況別・年齢階層別中間評価項目得点（第2群（移動等関連））移動平均差分（ボックスチャート）	233
.....	233
図 0-19 男女別中間評価項目得点（第3群（複雑な動作等関連））	233
.....	233
図 0-20 年齢階層別中間評価項目得点（第3群（複雑な動作等関連））	233
.....	233
図 0-21 現在の状況別中間評価項目得点（第3群（複雑な動作等関連））	233
.....	233
図 0-22 年齢階層別・男女別中間評価項目得点（第3群（複雑な動作等関連））	233
.....	233
図 0-23 現在の状況別・男女別中間評価項目得点（第3群（複雑な動作等関連））	233
.....	233
図 0-24 現在の状況別・年齢階層別中間評価項目得点（第3群（複雑な動作等関連））	233
.....	233
図 0-25 男女別中間評価項目得点（第4群（特別な介護等関連））	233
.....	233
図 0-26 年齢階層別中間評価項目得点（第4群（特別な介護等関連））移動平均差分（ボックスチャート）	233

図 0-27	現在の状況別中間評価項目得点（第4群（特別な介護等関連））	235
図 0-28	年齢階層別・男女別中間評価項目得点（第4群（特別な介護等関連））経年的な	236
図 0-29	現在の状況別・男女別別中間評価項目得点（第4群（特別な介護等関連））移動平均差分（ボックスチャート）	237
図 0-30	現在の状況別年齢階層別中間評価項目得点（第4群（特別な介護等関連））	240
図 0-31	男女別中間評価項目得点（第5群（身の回りの世話等関連））移動平均差分（ボックスチャート）	241
図 0-32	年齢階層別中間評価項目得点（第5群（身の回りの世話等関連））移動平均差分（ボックスチャート）	242
図 0-33	現在の状況別中間評価項目得点（第5群（身の回りの世話等関連））	244
図 0-34	年齢階層別・男女別中間評価項目得点（第5群（身の回りの世話等関連））移動平均差分（ボックスチャート）	246
図 0-35	現在の状況別・男女別中間評価項目得点（第5群（身の回りの世話等関連））	248
図 0-36	現在の状況別・年齢階層別中間評価項目得点（第5群（身の回りの世話等関連））移動平均差分（ボックスチャート）	250
図 0-37	男女別中間評価項目得点（第6群（コミュニケーション等関連））移動平均差分（ボックスチャート）	251
図 0-38	年齢階層別中間評価項目得点（第6群（コミュニケーション等関連））	252
図 0-39	現在の状況別中間評価項目得点（第6群（コミュニケーション等関連））移動平均差分（ボックスチャート）	253
図 0-40	年齢階層別・男女別中間評価項目得点（第6群（コミュニケーション等関連））	254
図 0-41	現在の状況別・男女別中間評価項目得点（第6群（コミュニケーション等関連））移動平均差分（ボックスチャート）	255
図 0-42	現在の状況別・年齢階層別中間評価項目得点（第6群（コミュニケーション等関連））移動平均差分（ボックスチャート）	258
図 0-43	男女別中間評価項目得点（第7群（問題行動関連））	259
図 0-44	年齢階層別中間評価項目得点（第7群（問題行動関連））	260
図 0-45	現在の状況別中間評価項目得点（第7群（問題行動関連））移動平均差分（ボックスチャート）	261
図 0-46	現在の状況別・男女別中間評価項目得点（第7群（問題行動関連））	262
図 0-47	現在の状況別年齢階層別第7群（問題行動関連）（問題行動に関連する項目）の中間評価項目得点移動平均差分（ボックスチャート）	265
図 0-48	1群分類による維持・悪化・改善群別1群得点の経年的変化	266

図 0-49	1 群分類による維持・悪化・改善群別 2 群得点の経年的変化	267
図 0-50	1 群分類による維持・悪化・改善群別 3 群得点の経年的変化	268
図 0-51	1 群分類による維持・悪化・改善群別 4 群得点の経年的変化	269
図 0-52	1 群分類による維持・悪化・改善群別 5 群得点の経年的変化	270
図 0-53	1 群分類による維持・悪化・改善群別 6 群得点の経年的変化	271
図 0-54	1 群分類による維持・悪化・改善群別 7 群得点の経年的変化	272
図 0-55	2 群分類による維持・悪化・改善群別 1 群得点の経年的変化	273
図 0-56	2 群分類による維持・悪化・改善群別 2 群得点の経年的変化	274
図 0-57	2 群分類による維持・悪化・改善群別 3 群得点の経年的変化	275
図 0-58	2 群分類による維持・悪化・改善群別 4 群得点の経年的変化	276
図 0-59	2 群分類による維持・悪化・改善群別 5 群得点の経年的変化	277
図 0-60	2 群分類による維持・悪化・改善群別 6 群得点の経年的変化	278
図 0-61	2 群分類による維持・悪化・改善群別 7 群得点の経年的変化	279
図 0-62	3 群分類による維持・悪化・改善群別 1 群得点の経年的変化	280
図 0-63	3 群分類による維持・悪化・改善群別 2 群得点の経年的変化	281
図 0-64	3 群分類による維持・悪化・改善群別 3 群得点の経年的変化	282
図 0-65	3 群分類による維持・悪化・改善群別 4 群得点の経年的変化	283
図 0-66	3 群分類による維持・悪化・改善群別 5 群得点の経年的変化	284
図 0-67	3 群分類による維持・悪化・改善群別 6 群得点の経年的変化	285
図 0-68	3 群分類による維持・悪化・改善群別 7 群得点の経年的変化	286
図 0-69	4 群分類による維持・悪化・改善群別 1 群得点の経年的変化	287
図 0-70	4 群分類による維持・悪化・改善群別 2 群得点の経年的変化	288
図 0-71	4 群分類による維持・悪化・改善群別 3 群得点の経年的変化	289
図 0-72	4 群分類による維持・悪化・改善群別 4 群得点の経年的変化	290
図 0-73	4 群分類による維持・悪化・改善群別 5 群得点の経年的変化	291
図 0-74	4 群分類による維持・悪化・改善群別 6 群得点の経年的変化	292
図 0-75	4 群分類による維持・悪化・改善群別 7 群得点の経年的変化	293
図 0-76	5 群分類による維持・悪化・改善群別 1 群得点の経年的変化	294
図 0-77	5 群分類による維持・悪化・改善群別 2 群得点の経年的変化	295
図 0-78	5 群分類による維持・悪化・改善群別 3 群得点の経年的変化	296
図 0-79	5 群分類による維持・悪化・改善群別 4 群得点の経年的変化	297
図 0-80	5 群分類による維持・悪化・改善群別 5 群得点の経年的変化	298
図 0-81	5 群分類による維持・悪化・改善群別 6 群得点の経年的変化	299

図 0-82	5 群分類による維持・悪化・改善群別 7 群得点の経年的変化	300
図 0-83	6 群分類による維持・悪化・改善群別 1 群得点の経年的変化	301
図 0-84	6 群分類による維持・悪化・改善群別 2 群得点の経年的変化	302
図 0-85	6 群分類による維持・悪化・改善群別 3 群得点の経年的変化	303
図 0-86	6 群分類による維持・悪化・改善群別 4 群得点の経年的変化	304
図 0-87	6 群分類による維持・悪化・改善群別 5 群得点の経年的変化	305
図 0-88	6 群分類による維持・悪化・改善群別 6 群得点の経年的変化	306
図 0-89	6 群分類による維持・悪化・改善群別 7 群得点の経年的変化	307
図 0-90	7 群分類による維持・悪化・改善群別 1 群得点の経年的変化	308
図 0-91	7 群分類による維持・悪化・改善群別 2 群得点の経年的変化	309
図 0-92	7 群分類による維持・悪化・改善群別 3 群得点の経年的変化	310
図 0-93	7 群分類による維持・悪化・改善群別 4 群得点の経年的変化	311
図 0-94	7 群分類による維持・悪化・改善群別 5 群得点の経年的変化	312
図 0-95	7 群分類による維持・悪化・改善群別 6 群得点の経年的変化	313
図 0-96	7 群分類による維持・悪化・改善群別 7 群得点の経年的変化	314

はじめに

1. 研究の背景と目的

平成 18 年度介護保険制度改正において、予防重視型システムへの転換が掲げられ、要介護状態に満たないものに対しては、新しい区分である要支援という区分が新たに設けられた。また、この要支援区分に該当する高齢者に対するサービスとして介護予防サービスが創設された。ここでいう介護予防とは、「要介護状態の発生をできる限り防ぐ（遅らせる）こと、あるいは要介護状態にあつてはその悪化をできる限り防ぐこと」と定義されている。

平成 20 年までは、予防給付対象者かどうかを弁別する判定は、介護認定審査会における臨床的な知見による合議によって行われていたが、平成 21 年度からは、一次判定による判定が示されることとなった。これは、非該当あるいは要支援、要介護度の判定に際して、十分な議論がされている審査会もあれば、そうでない審査会もあったことや、一次判定では非該当となっているにも関わらず、要支援へと変更される、あるいは、一次判定では要支援とされていたにも関わらず、要介護 1 への変更がされるといった割合が審査会に拠って大きく異なる傾向があったということに拠っている。

このような状況を鑑み、前述したように平成 21 年度介護保険制度改定において要介護認定の改定がなされ、コンピュータソフトによる一次判定で予防給付対象者の判定に資する資料を組み込むこととされた。

要介護認定の一次判定ロジックは、高齢者の複雑な状態像をできるだけ、調査項目間の関係性として示し、これらの状態像を複雑なまま、判定結果に反映させることができる方法論がとられてきた。具体的には、高齢者の状態像の一部を示す調査項目の判定結果と他の項目との結果との関係性を示すことができ、さらに専門家にとっては、これを資料として介護サービスの内容や量をある程度、予測することもできる。

今回、新たに平成 21 年度の改定において包含された要支援対象者のスクリーニングロジックは、これまで蓄積されてきた介護保険制度における要介護認定のデータを分析した結果を基につくられた。すでに介護保険制度制定時から 10 年が経過し、制度実施時とは、介護保険サービスの受給者の構成は大きく変化した。このため今回の認定ロジックの改定においては、より多くの予防給付対象者を含む多様な高齢者像からなる要介護認定データを基礎として、その分析結果を基に改定がなされたと聞いている。

このように要介護認定における一次判定システムについては、2000 年に開発された当初のシステムに比較すれば、軽症の高齢者や予防給付を必要とする高齢者の予測についても、一定レベルの妥当性が示された推計ができるようになってきていると推察される。しかし、要介護認定における区分とは、「介護の手間」という要介護認定基準時間というものさしによってなされている。このため、本来的には、要介護状態の予防や状態悪化の鈍化に資する

サービスとは別次元で考えられるべきであろう。なぜなら、要介護認定の一次判定ロジックは、要介護認定基準時間と呼ばれる「介護の手間」が根拠であり、これらのデータは、施設等の介護者に対する1分間タイムスタディ法によって収集されたものであるからである。

平成21年度改定では、介護を必要とする高齢者に対する必要な介護内容別時間の推定の精度は高くなったといえるかもしれないが、予防サービスの必要性を推定する資料としては十分とはいえない。これは、要支援と認定された高齢者すべてが予防サービスの給付を受けておらず、これらのサービスによって要介護状態の発生をできる限り防ぐかどうかを示すエビデンスが蓄積されていないからである。

そこで、本研究では、要介護度の悪化速度の鈍化のための予防サービス提供のための標準的なモデルを検討するにあたって、悪化速度を示す新たな指標を提示することを目的とした。この指標の提示は、国民にわかりやすく、そして説明可能な科学的根拠に基づいた要支援対象者に対する予防サービス及びその認定方法に資するものであり、社会的な成果として国民の福祉の向上につながると考えられる。

2. 研究の概要

1) 平成19年度（1年目）

平成19年度は、予防給付の対象群の選定に際して、データ同期理論を応用した統計手法を開発した。具体的には「予防重視型高齢者群」及び「介護重視型高齢者群」の2分類し、次の段階でこの介護重視型の高齢者群の予後を勘案して、さらに4分類した。この分類別に属性や日常生活動作能力および提供されている介護給付等を分析した。

これにより、主に介護保険施設に入所している介護重視群におけるサービス提供状況が示された。また、認知症のトリガーの可能性のある睡眠障害の実態について介護保険施設の入所高齢者を対象として明らかにした。

2) 平成20年度（2年目）

平成20年度は、予防重視群の基本属性および提供された介護サービス内容を明らかにした。また、在宅の要介護高齢者に提供されていた家族および施設（通所）、病院等のサービス量の分析を行った。また、在宅の介護サービスを受けている認知症高齢者の睡眠障害に関連する背景要因を明らかにするためにBPSDの各種の症状とその頻度、認知機能評価との関連について解析を行った。

3) 平成 21 年度（最終年目）

平成 21 年度は、第 1 に、施設および在宅における予防重視群および介護重視群に提供されていたサービスの内容及び時間、提供時間帯等を分析した。第 2 に、新たに開発した高齢者タイプによるサービス量の分析を実施し、高齢者を分類するために開発したモデルの妥当性を検証した。第 3 に、要介護高齢者の経年的変化のデータの分析結果より、高齢者の悪化速度別に、3 タイプに分類し、これらのタイプ別に実際に提供された介護サービス量についてその種類と量に関する分析を行った。第 4 に、これらの 3 タイプ別の経年的な変化速度を数量化し、予防的な介護を実現するための新たな指標の開発を行った。

第1章 データ分析に用いた要介護者の性別・年齢別の基礎的属性 -全国調査との比較より-

本章では、本分析に用いた要介護高齢者 72660 人分の経年的なデータにおける基本属性を明らかにするとともに、介護給付費実態調査月報(平成 21 年 12 月審査分)における 396.3 万人の全国の介護保険サービス受給者の傾向との比較を行った。

1. 基本属性

1) 性別

男女の構成割合は、分析データでは、男性は 30.9%、女性が 69.1%であり、全国データの男性 29.3%、女性 71.0%とほぼ同じ傾向を示していた。

表 1-1 分析データと全国データにおける男女の構成割合

	分析データ		全国データ	
	N	%	N	%
男性	22469	30.9	1 159.6	29.3
女性	50191	69.1	2 813.8	71.0
合計	72660	100.0	3 963.4	100.0

※全国データの N 数の単位は千人